



対談企画 02	建築家 隈研吾	港区議会議員 黒崎ゆういち	P.2-3	日ごろの課題への 取り組み結果のご紹介	P.1	Kurosaki Eyes 「前への歩き方。」	P.1	黒崎ゆういちからの 活動報告	P.4
								2020/2 > 2020/9	

日ごろの課題への 取り組み結果の ご紹介

品川駅での朝のごあいさつや事務所での区民相談会、Twitter や LINE などさまざまな機会に、区民の皆さんからさまざまなご相談をいただいています。特にコロナ禍では普段の3倍以上のご相談をいただきました。区議会議員の活動は多岐にわたり、地域開発や教育など大規模な案件にも奔走していますが、今回は議員活動の中で関わった、皆さんの生活面に関わる改善点についてピックアップしてご紹介します。今後も街の課題は、ぜひ黒崎ゆういちへご相談ください。

港南緑水公園前のT字路に ウォーターブロックを 設置しました

交差点のガードレールについてご意見をいただきました。東京都建設局の第一建設事務所に申し入れ、今後付近の無電柱化の際により安全な対策を取ると回答を得ました。緊急措置としてウォーターブロックを設置しています。



道幅の広い道路では 青延長用押ボタンを ご活用ください

横断歩道の青信号の時間が短く子どもが渡りきれないとご相談を受けました。高輪警察署と東京都建設局から「信号の時間は変えられないが、青延長用押ボタンを押すと青信号が5秒延びるので活用してほしい」と回答を得ました。



事故防止のため パーキングメーターを 一部削除しました

品川埠頭線のパーキングメーターについて「フェイバリッチタワー品川」の駐車場へ入庫する際に停車中の車で走行車が見えず危ない」と指摘がありました。高輪警察署と東京都建設局に調整いただき2枠が削除されました。



品川駅港南商店会の 落書きを 消去しました

塀の落書きがひどくなったと相談を受け、港区の落書き消去を支援する制度をご紹介しました。合わせて区から防犯カメラも設置。どちらも無料で利用できる制度です。港区の防災課生活安全推進担当にご相談ください。

店舗跡に増えた 不法投棄対策を 行いました

港南四丁目交差点の店舗跡に不法投棄が目立つとご相談があり、芝浦港南地区の協働推進課の協力を得て所有者を特定。今後は定期的に東京モノレールが清掃を担当する事になりました。港南地域連合会でも経緯をご説明しました。



品川駅自由通路の 案内看板が 分かりやすくなりました

品川駅港南口の通路上部の案内看板が JR 品川駅のみの記載で来訪者が迷う原因になっていました。そこで芝浦港南総合支所のまちづくり課を通して JR 東日本へ申し入れを行い、案内看板に京急線や新幹線の案内を追加いただきました。



明治大学公共政策大学院 ガバナンス研究科に 入学いたしました

今年9月、母校・明治大学の公共政策大学院ガバナンス研究科に入学いたしました。今回、この学びを通して公共政策の高度な知識を身につけ、より皆さまに役立てるよう政策創造能力や政策実施能力の向上を目指して行きます。



Kurosaki Eyes 「前への歩き方。」

「黒崎ゆういち公式 WEB サイト」にて、エッセイ「前への歩き方。」を掲載いたしました。ここではそのごく一部を抜粋でお届けいたします。ぜひ公式 WEB サイト「活動レポート」の「エッセイ」から全文をご一読いただければ幸いです。



パブリックビューイングで感じた「一体感」

昨年、ラグビーワールドカップ (RWC) が全国各地で開催され、日本代表がベスト 8 進出という歴史的な偉業を遂げてくれました。高校日本代表に選ばれ、一度は RWC を目指した私にとっても誇らしい活躍でした。

私が議員を務める港区の3カ所(港南・お台場・芝公園)でも合計4回のパブリックビューイングを開催し、スタジアムの外でも試合の雰囲気や世界レベルの超一流プレーを楽しんでいただけました。このパブリックビューイングを通して再認識したのは、スポーツが街の一体感を生むこと、そして人が集まる場所づくりの可能性であり、私が感じた RWC のレガシー(遺産)のひとつでした。あの熱気や雰囲気を「これから」につなげたいと強く思います。

震災復興で感じた「One For All, All For One」

そして今年3月、世界中がコロナ禍に巻き込まれる中、市民として議員として、9年前の東日本大震災を思い出していました。当時、多くの方が命を落とし、家や故郷を奪われた中で、岩手県釜石市の地元

ラグビークラブ「釜石シーウェイブズ」の選手たちも、震災の当日から市民の救援に集まり、復興にも力を尽くしていました。「One For All, All For One」。「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」というラグビーに欠かさない精神を、選手たちが自らの行動で証明してくれたのです。私自身も会社員としてボランティアに参加し、さまざまな学びを得ました。

港区の力を生かした現状突破が 私自身の「前への歩き方。」

その後、2015年に私自身は港区議になり、一方で、ラグビー日本代表の選手達は「サンウルブズ」として2016年からラグビーの国際リーグ「スーパーラグビー(SR)」に参加。それが「秩父宮みなとラグビーまつり」の開催のきっかけとなりました。このときの経験から、港区の地域資源・地域資産を生かしたいという考えが強くなり、RWCでのパブリックビューイングへとつながっています。レガシー(遺産)というパスを、どう次へと繋いで、ゲインライン(現状)を突破していくか。それを考えるのが私自身の「前への歩き方。」だと日々考えています。

